

# 成績評価の厳格化・公正性の確保に向けた方針 の策定、標準化施策検討における調査



## 1. 調査の目的

成績評価の厳格化や標準化を実現すること、また、成績評価における公平性や信頼性を確保するために「東京理科大学 成績評価基準」を設けているが、成績評価における各評価(S~D)の比率の目安が組織的に定められておらず、各授業担当教員に一任されていることから、授業担当教員が異なる同一名称科目間における成績評価のばらつきや、特定科目における著しく偏った成績評価等の事例が散見される状況にあった。

これを是正し、組織的に成績評価の厳格化や標準化を実現すること、学生に対して成績評価における公平性や信頼性を確保すること等の実現に向けた施策を検討するために、現状の成績評価状況の調査を実施した。

## 2. 調査対象

2014年度及び2015年度の学部で開講する全授業における  
成績評価の比率等

## 3. 調査結果の提供先

副学長（教育担当）、教育支援機構

## 4. 調査内容

- ①組織（全学・学部別・学科）別成績評価状況の調査
- ②教員別成績評価状況の調査
- ③授業別成績評価状況の調査
- ④1年指定必修科目（関門制度対象科目）における成績評価状況の調査
- ⑤全学生(2015年度在学生)の成績評価素点分布調査

※上記において極端な成績評価状況の傾向があった授業等については、過年度にさかのぼって調査を実施

## 5. 調査結果の概要

同一名称の授業(1科目を2授業以上のクラスに分けて実施等)において、成績評価のばらつきが認められる授業や、例年偏った成績評価の傾向である授業や担当教員について明らかとなった。併せて、全学や学部・学科、専門科目・一般教養科目別、教員別等における成績評価(S～D)の各比率も確認できた。

## 6. 施策への反映結果

教育支援機構において、本調査の結果をもとに施策を検討し、自発的な改善を促す目的として、以下のことに取組んだ（対象：学部授業）。

- 授業を担当する教員へ自身の担当授業における成績評価比率を周知
- 教職員ポータルサイトにおいて全対象授業の成績評価比率を公表

これにより、改善に向けた一定の動きはあったものの、継続的な検証により、加速度的な改善が必要と判断したことから、一つの授業における成績評価比率の目安を設定した「成績評価の方針」を定めた。併せて、各学期の全対象授業の成績評価比率は学生ポータルサイトで公表することとした。

また、教育支援機構においては、同方針の導入以降、成績評価結果によって状況の確認と改善が必要と判断する授業の条件(成績評価比率の偏り割合等)を設定し、該当する授業を担当する教員に対して、該当学科の責任者がヒアリングを行うとともに、学部長等がその結果を検証・講評し、教育支援機構長に報告することで、状況等の把握・共有、組織としての改善事項と改善支援策の検討・実施を行っている。